



学びにくさのある 子供の理解と支援

～高等学校における 通級指導の実践～

宮城県松山高等学校
教諭 村上真由美

松山高校のスタイルについて

生徒について

調理コース



普通科

1年	20名	
2年	19名	
3年	18名	計57名

生徒	152名
職員	35名

保育コース



家政科

1年	28名
2年	37名
3年	30名
計	95名



被服コース

松高Keyword

生徒の様子

- 明るく人なつこい
- 女子生徒が多く、にぎやか
- 科によって雰囲気が違う
- 中学校の欠席日数が100日を超える生徒が複数在籍
- 勉強が分からない、苦手と感じている生徒が多い
- 勉強する習慣が薄い
- 自己肯定感、有用感が低い
- ところの問題
- アルファベットや漢字の読み書きが困難な生徒が複数いる



困り感・課題

- 一斉指導で指示が通りにくい
- コミュニケーション力が低い
自分の考えを表出できない（しない）
分からないことを聞けない（かない）
生徒間のトラブルが多い
⇒聞き違い、表現のまずさ 等
- 計画的に勉強できない（しない）
- 家庭の協力が難しい
- 発達の偏りなのか、愛着形成の問題なのか判断しにくいケース
- 忘れ物、提出物、ファイルの整理、机やロッカーの整理整頓の問題

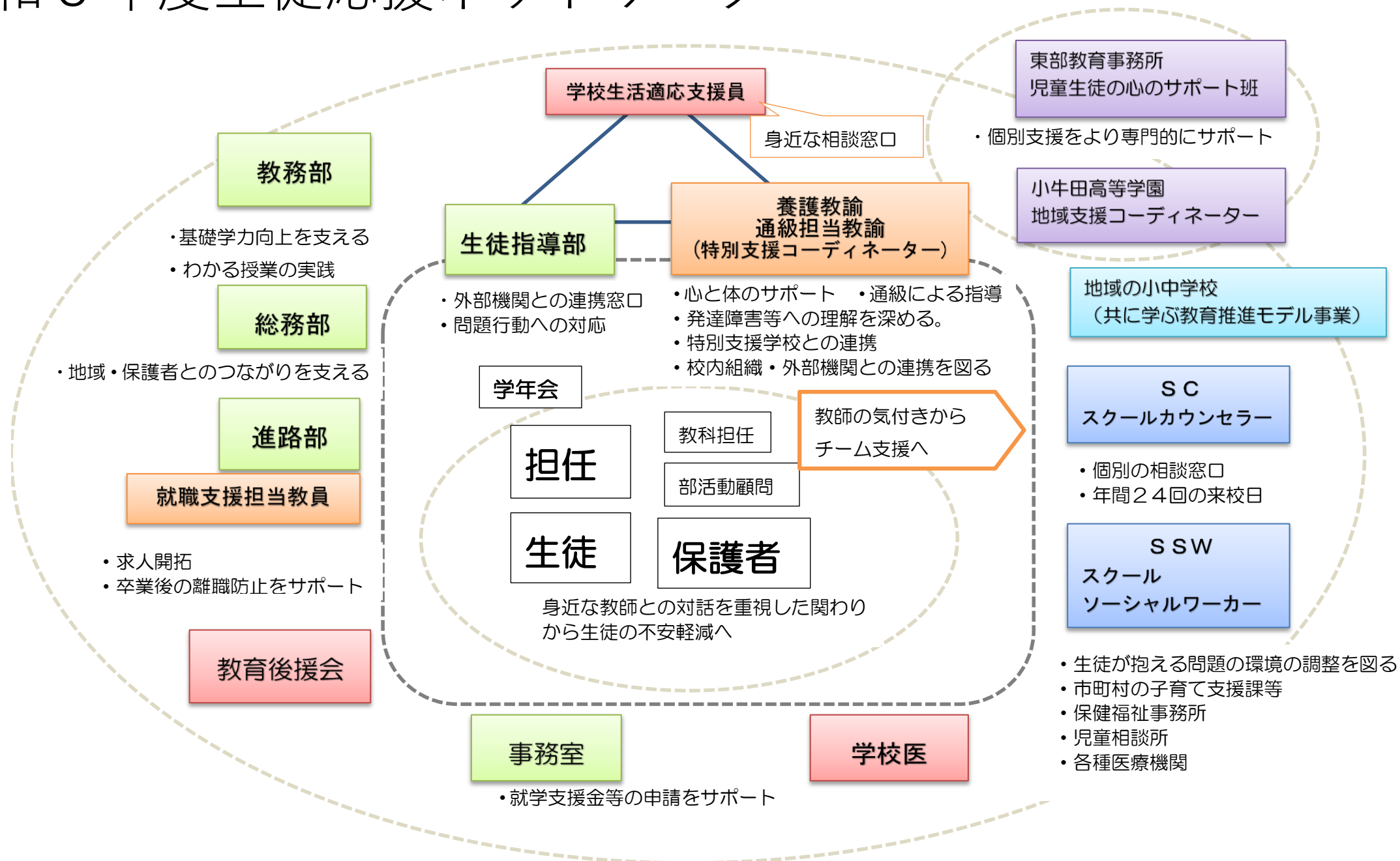
松高スタイル基本理念

- 場面を限定せず、全ての教育活動の中で、特別支援教育の視点・考えを取り入れて実施する。・・・通級はその一環
- 必要な生徒にタイムリーに支援を入れる。
- 障害認定の有無によらず、生徒の困り感（周囲の困り感）に寄り添う。
- 生徒の自尊心を尊重する。
- 全ての職員で取り組む。
- 支援の段階を作り、保護者と連携して指導に当たる。

スキルアップを目指した取組

活動・取り組み	ねらい・育てたい力・高めたい力
「生徒応援ネットワーク」の構築	多くの目と手で生徒を育てる
ちゃれんじ松高生	進路学習、SST、コミュスキル
ONE UPゼミ	スキルアップ、新たな挑戦
生徒会企画行事：全校クイズ大会	コミュニケーションスキル
サブT面談	コミュスキル、新たな出会い
ほっこりカフェ	ほっとする居場所、コミュスキル
SSTゼミ	コミュスキル、自尊心、自信
サポ松（通級による指導・自立活動）	自己理解、コミュスキル、生活スキル
令和3年度～5年度 共に学ぶ教育推進事業	
UDL推進、地域の小中高連携	

令和3年度生徒応援ネットワーク



松山高校の支援モデル

社会的・職業的自立

1対1の個別指導
個別の課題に対応
＊通級による指導

学校Café
会場：図書室
居場所づくり
おしゃべり
ボードゲーム 等
自由参加 月1回

松山スタディサポート
“サポ松”

SSTゼミ

グループでコミュニケーションの学習
(5～8人)
必要な生徒に声掛け
週1回

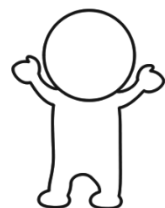
ほっこりカフェ

学級経営
わかりやすい授業
学校行事
縦割りの学習 等

通級対象生徒と各活動の関係

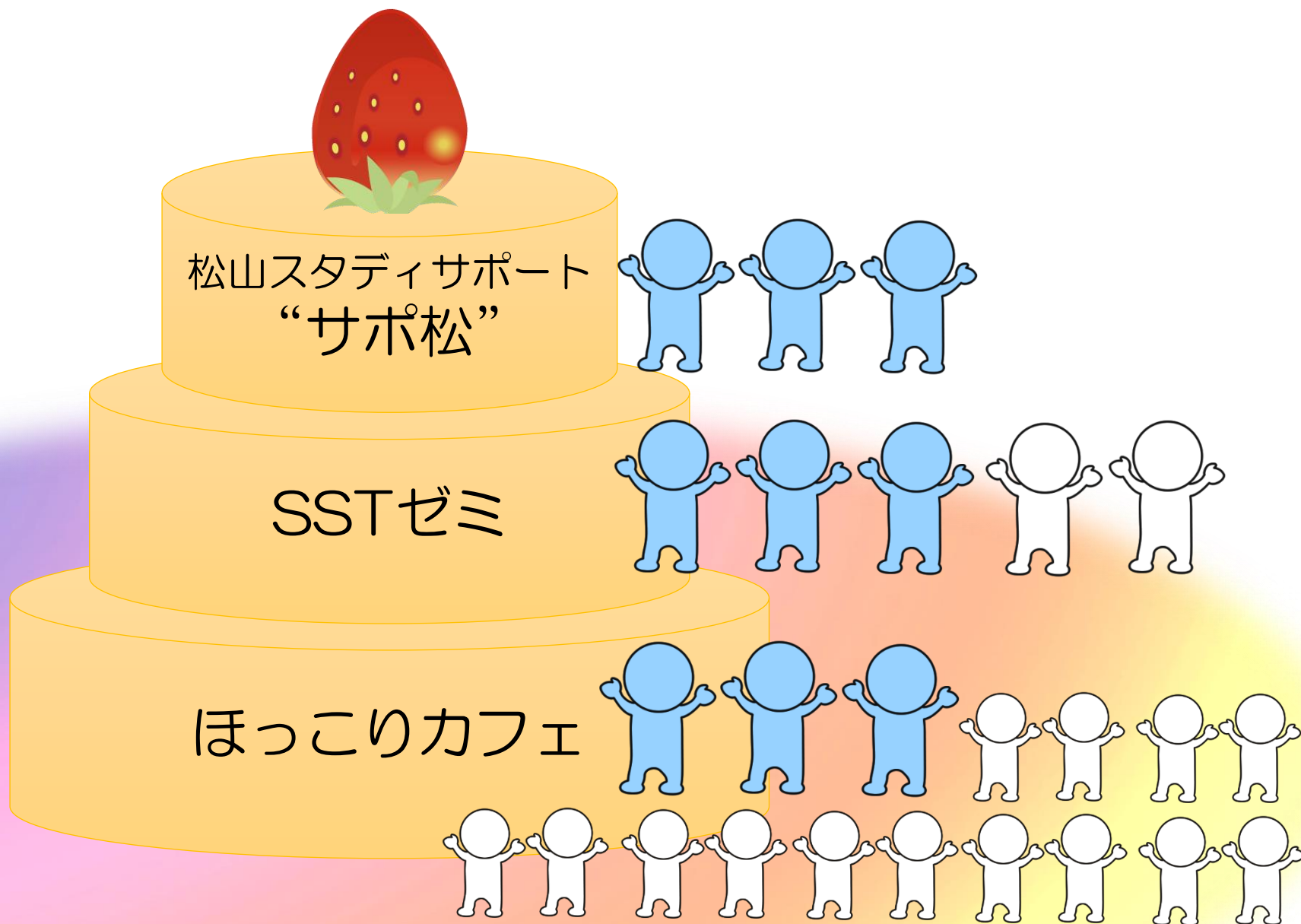


通級対象生徒



その他の生徒

学校全体



ほっこりカフェ

対象生徒 全校生徒（申し込みなしのフリー参加）

ねらい 生徒の居場所作り

コミュニケーションの経験を積む

内 容 高校Café

ボードゲーム、読書、おにぎり作り、ハロウィン

クリスマス会等の季節行事 など

会 場 図書室

経 緯 昼食を持ってこない生徒や生活経験の少ない生徒に、
軽食やおやつを提供しながら、生活経験とコミュニケーションの場としたいと考え、令和元年度から始めた。
神奈川県立田奈高等学校の“ぴっかりカフェ”がモデル

ほっこりカフェの様子



SSTゼミ（ソーシャルスキル・トレーニング）

対象生徒	全校にチラシを配布して周知する 気になる生徒には個別に声掛けをして参加を促す
参加生徒	通級生徒 3 名、ニーズのある生徒 2 名
指導内容	SSTの手順を踏まえつつ、自由な雰囲気の中で他者とのかかわりの楽しさを体験できるようにする
合意形成	本人と保護者の同意の上で参加 同意書等とはとらない
実施日	週 1 回
使用教室	視聴覚室または生徒相談室
情報共有	職員会議で参加者と内容を報告 担任と情報交換・報告

S S T ゼミの様子

第1回は、鈴田先生の提案ですごろくを作って遊びました。楽しかったようで、2回目以降も続け、会話のやりとりができるようになってきました。



SSTゼミの学習（令和２年度）

期間	題材 ・ ねらい	取組の様子
6～7月	大きなすごろく ・物を介した言葉のやりとりを通して、コミュニケーションを経験する。	「○さん、○○をとってください」 「コマを進めてください」等の台詞を限定したことで、話すことができた。
8～10月	ボードゲームをしよう ・ゲームをしながら、声掛けができるようになる。	人狼ゲーム、なんじゃもんじゃゲームをしながら、「次○○さんだよ」等の言葉が出るようになった。
10月	挨拶の練習	大きな声で挨拶する練習をした。
11～12月	クリスマスパーティーをしよう ・企画から実行まで、互いの意見を尊重しながら取り組む。	生徒からの要望で行うこととした。話し合い活動中に、何度か教師が介入する必要があった。
1～3月	ボードゲームをしよう② ・自分たちで何をするかを話し合い、ボードゲームを楽しむ。	自分が遊びたいゲームを伝えるだけでなく、他者の希望を聞いて調整をして取り組むことができた。

SSTゼミの学習（令和3年度）

期間	題材 ・ ねらい	取組の様子
4～6月	人生ゲームを作ろう ・これまでの年表を作り、これまでの楽しかったこと、大変だったことを振り返る。 ・未来予想を考え、卒業後の進路、その後の生き方について考える。	・これまでの振り返りが難しい生徒がいた。覚えていないと言うので、エピソードを拾っていったところ、少しずつ思い出すことができた。 ・未来を描くことが難しかった。特に余暇については、全員考えることができなかった。
7月	人との関わりを考えよう ・日常生活の中で起きた（起きそうな）場面のロールプレイを通して、どうしたらトラブルにならないか、トラブルが起きた場合はどう対処したら良いかを考える。	・楽しんで演技し、客観的にその場面を捉えることができていた。 ・トラブル回避について、一人一人自分の考えを述べることができた。 <その後> ・その場では良い意見が出て前向きに考えていたが、数日後、昼食場でトラブルがあり、汎化の難しさを感じた。

通級による指導（通称：サポ松）

指導日	：	月曜日（放課後） 2 年男子
		水曜日（放課後） 2 年女子（通級の認定はない）
		金曜日（放課後） 3 年女子
		毎日（放課後 1 5 分） 2 年男子（申請中）
単 位	：	認定していない（R 5 年度から認定）
指導体制	：	指導担当
		通級指導担当
		日々の指導
		担任、学年
		指導の報告
		生徒支援委員会
		職員会議
		担任との情報交換
		ケース会議
		学年主任、担任、通級担当

通級による指導の事例

本校だけでなく、他校での取組も併せてお伝えします。
架空の人物を設定し、内容を損なわないよう改変してあります。

事例 1 Aさん：3年生 女子

- 困り感 : スケジュールや提出物の管理が困難
 コミュニケーションがとれない
- 実 態 : 絵を描くことが好き
 手先が器用で、細かい作業ができる
 提出物を出さなくてもなんとかなると思っている
 予定を把握する必要性を感じていない
 学校でほとんど誰とも会話をせず孤立している
 診断なし
- 目 標 : 自分から話しかけることができる
 提出期限を守って提出物を出す

事例 1 Aさん：3年生 女子

冰山モデル

見えている実態

- ・ 絵好き
- ・ 手先器用
- ・ 提出物 ✕
- ・ 整理整頓 ✕
- ・ スケジュール管理 ✕
- ・ 会話しない
- ・ 孤立

隠れている背景

- ・ 家庭環境
- ・ アタッチメントの形成不全の可能性
- ・ いじめ（小学校）
- ・ 視覚優位
- ・ 聞いたことを覚えておくことが難しい
- ・ 成功体験が極端に少ない
- ・ 自信をもてない
- ・ 自己肯定感が著しく低い
- ・ 困っていると、そっと誰かが教えてくれる
- ・ 自分がしなくてもやってもらえる など

指導内容

- ①手帳を使って、日々の予定を把握できるようにする。
- ②1対1で会話の練習をして、S S Tゼミで対象を拡げる。
- ③自信がもてるよう、得意を伸ばす
⇒調理の練習をしてできることを増やす。
- ④メモをとれるよう練習をする
- ⑤家庭と連絡帳を使って連携を図る

事例 1 Aさん：3年生 女子

半年経過のエピソード

- 言えばスケジュール帳に記入はするが、予定の把握に興味をもてず、記入していても取り組めないことが多い。自分からは記入しない。
- 授業中に分からないことを積極的に聞くなど、大人とは必要なコミュニケーションがとれるようになってきた。
- 安心した場面では、コミュニケーションを楽しめるようになり、感謝の言葉を上手に伝えられるようになった。
- 同年齢の中で、コミュニケーションをとることが難しい。
- 実技系の授業で、指示を理解しながら一人で取り組めるようになった。
- ノートを記入しない、提出物を出さない。⇒放課後に残して提出させた。
- 呼び出しを受けても、忘れてしまっで行かない。
- 家に帰って連絡帳を出さないなので、家族が見ていない。

事例 1 Aさん：3年生 女子

指導内容（1）

- ①手帳を使って、日々の予定を把握できるようにする。
- ②1対1で会話の練習をして、SSTゼミで対象を拡げる。
- ③自信がもてるよう、得意を伸ばす
 - ・調理に興味があるので、調理の練習をしてできることを増やす。
- ④メモをとれるよう練習をする
- ⑤家庭と連絡長を使って連携を図る

変更

指導内容（2）

- ①携帯電話を使ってスケジュール管理をする。（父アイディア）
- ②SSTゼミの中で役割をもって、他者に話かけられないようにする。
- ③生活スキルの向上を図る
 - ・家庭の買い物を一人で行う。
 - 送迎は家族に手伝ってもらう。
- ④携帯電話のアプリでメモをする。
- ⑤毎月1回、保護者・本人と面談

事例 1 Aさん：3年生 女子

最近のエピソード

- 予定が入ると、携帯電話を取り出して、自分から月予定に記入している。声掛けをしなくても、集合場所に行くことができる。時間ぴったりに集合場所に行くので、5分前に「来ていない」と焦った教員が呼びに来ることがあり、「わかっているのに…」と不服そうにしている。
- SSTゼミの時、他の生徒に自分から声をかけることが増えてきた。
- 教職員に、自分から挨拶をしたり話しかけている。
- 教室や選択授業などでは、他の生徒と関わろうとしない。
- 授業で使うものを準備できていないことが多々あったが、買い物に行くようになってからは、自分で購入して準備することができてきた。
- 保護者との連携がスムーズになり、情報共有ができています。

事例 2 Bさん：2年生 男子

- 困り感 : 提出物の管理が困難
 授業に集中して取り組むことができない
 繰り返し漢字の練習しても間違えることが多い
- 実 態 : 運動神経が良く、体育が好き
 クラスの生徒と関わろうとしない
 女子生徒の嬌声が耳についてイライラする
 学習習慣が身についておらず、テスト勉強もしない
 特定の生徒に対してきつく当たり、トラブルになる
 診断なし
- 目 標 : 提出期限を守り、内容を確認して提出する
 他者との友好的なかかわり方を身に着ける

事例 2 Bさん：2年生 男子

冰山モデル

見えている実態

- ・運動神経が良い
- ・常にイライラしている
- ・コミュニケーションをとろうとしない
- ・勉強✕ ・提出物✕

隠れている背景

- ・授業でやっていることが理解できない
- ・できないこと（わからないこと）を揶揄されて傷ついている
- ・認知に大きな偏りはない
- ・体で覚えることが楽なようだ
- ・自己肯定感が低い
- ・将来に夢や目標が持てない
- ・時間があるとゲームをしている
- ・「勉強をしなさい」と言われない環境
- ・不安が大きい
- ・見通しが甘い

指導内容

- ①本人に合った漢字の学習の仕方を探る。
- ②自信がもてるよう、得意を伸ばす
⇒調理が好きなので、学校や家庭で場面を設定して経験を重ね、技能を高める。
- ③SSTゼミと連動して、コミュニケーションのトレーニングをする。
- ④ほっこりカフェで役割をもつ。

事例 2 Bさん：2年生 男子

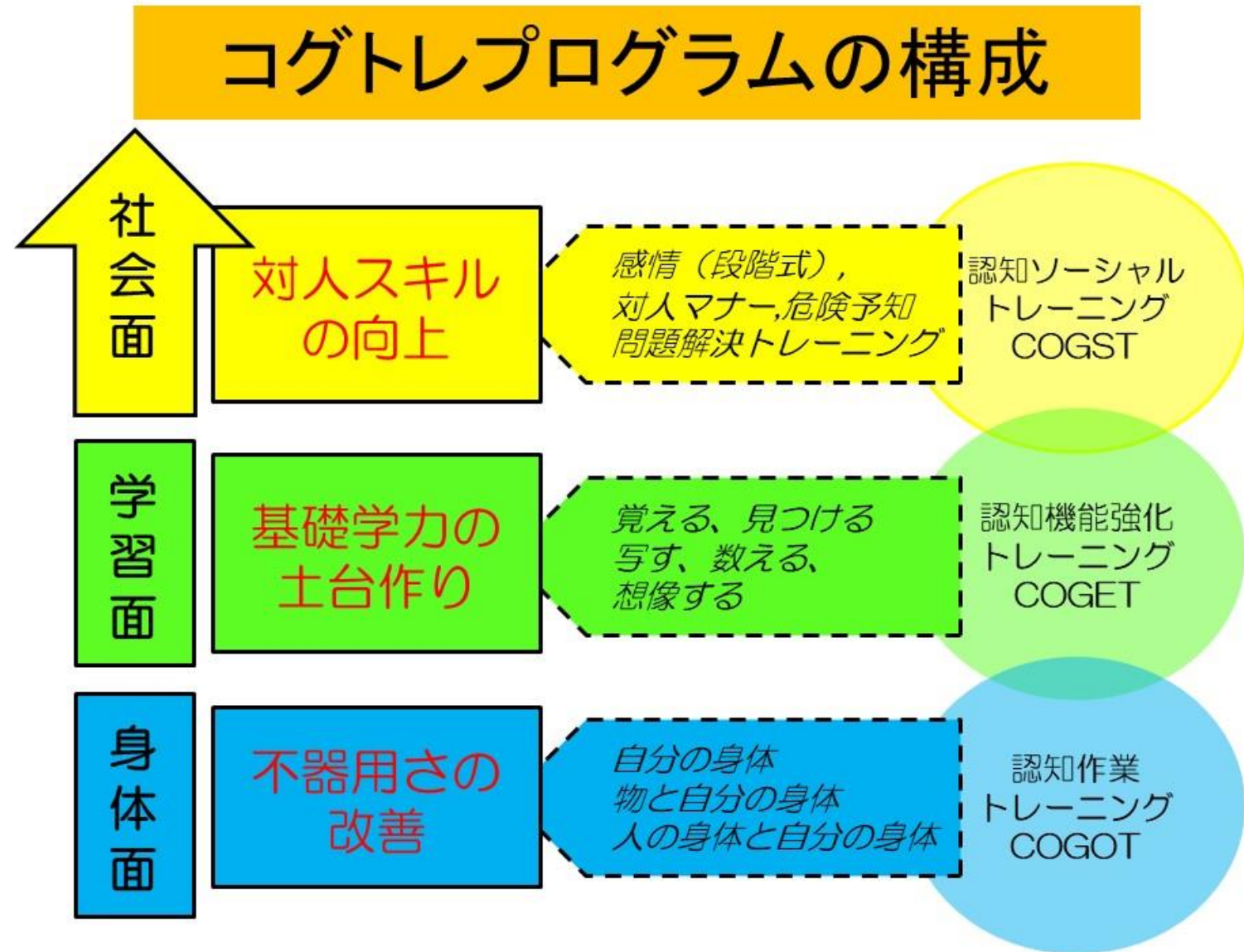
最近のエピソード

- 漢字の学習の仕方を探っている際、間違って覚えているものが多く、直すことが難しかった。なぞり書きで正しい文字を覚えることが有効だった。
 - 家で作った料理を弁当に入れてもってきて、他の生徒や教師に披露し、皆に褒められて満足そうにしていた。
 - SSTゼミに参加している他の生徒の様子が気になり、コミュニケーションの勉強会をしてほしいと自分から言い出した。内容や進め方を教師と相談し、ロールプレイを取り入れたトレーニングを行った。
 - SSTゼミのメンバーに自分から声をかけて、校外で遊ぶ約束をしていた。
 - 授業中の様子は、変化が見られない。
- <今後>コグトレ*1、ビジョントレーニング*2を取り入れる。

* 1

コグトレとは

コグトレ® (Cog-Tr) は、
認知 ○○ トレーニング
(Cognitive ○○ Training)
の略称で、
3つのトレーニングで構成
されています。



* 2

ビジョントレーニングとは

ビジョントレーニングは、子どものADHDやLD、読み書き障害など発達に課題がみられる子どもたちの改善・克服などに活用され、取り組まれている発達支援の実践プログラムです。またこのトレーニングは、健常者にとっても視空間認知能力を高め、動体視力や判断力などの身体能力の向上もできるため、アスリートやプロスポーツ選手の能力発揮に用いられています。

ビジョントレーニングでは、この眼の諸機能（視覚機能）を鍛えることによって、脳を活性化させ視空間認知能力を向上させるとともに、人が本来持つ集中力・判断力・情報処理能力など、様々な能力を高めていきます。視覚機能を高めることで正しく脳や各機関に伝えて処理するチカラを育てていくことができるのです。

事例 3 Cさん：2年生 男子

- 困り感 : 気分の波があり、登校できない日もある
同級生とのトラブルことがあり、うまく関われない
- 実 態 : 絵を描くことが好き 器用とは言えない
同年代、同性の生徒と関わりたい気持ちが大きい
突然思いついた言動をとるので、周囲が驚く
感情を抑えられず、怒鳴ったり泣いたりする
ゲームを始めると終わりにすることが難しい
ASD：服薬あり
- 目 標 : 感情のコントロールができるようになる

事例 3 Cさん：2年生 男子

冰山モデル

見えている実態

- ・ 絵好き ・ 不器用
- ・ トラブルメーカー
- ・ 感情が爆発
- ・ 仲良くしたいのに...
- ・ 学校を休みがち

隠れている背景

- ・ 運動の苦手 ・ 視覚優位？
- ・ 他者の気持ちをその場でくみ取ることが難しい
- ・ その場の状況を察知することが難しい
- ・ 自分の気持ちの理解が上手くできていない
- ・ 湧き出た感情や疑問を抑えることが難しい
- ・ いろいろ想像して計画を立てる
⇒他の人が想像通りに動かないので怒る
- ・ 生活リズムが乱れる（ゲーム、YouTube）
- ・ こだわりが強く、納得するまで時間を要する
- ・ 実技系の授業で、自分のルールや方法で進めてしまい、その方法を変更することが難しい。

指導内容

- ①毎日の振り返りをする
⇒その日の出来事はその日に整理し、翌日に持ち込まないようにする。
- ②翌日（週）の予定の確認をする
⇒見通しをもって安心して生活できるようにする。
- ③SSTゼミと連動して、コミュニケーションのトレーニングをする。
- ④手順書を使った学習に取り組む。

事例 3 Cさん：2年生 男子

最近のエピソード

- 振り返りシートを使って毎日の振り返りを行っているが、疲れが見られる日は、ほとんど記入することができない。質問をしても「別に普通です」と答え、何が原因で疲れているのかも説明することができない。
- 見通しをもって生活することは、比較的有効に作用しているように思われる。
- SSTゼミに参加している生徒と楽しく会話をする日と、うつむいて何も話さない日がある。ロールプレイをしてコミュニケーションの勉強をする
と、正しい答えを見つけることができるが、実生活では上手くできていない。
- 校外で学習する際、運動着を使うと伝えたが、持って帰るように言わなかった
ので持ち帰らず、運動着を着ることができなかった。

学びにくさのある子供の理解と
支援を深めるために

生徒の学びにくさを理解するために

- 中学校からの聞き取り（全生徒）
- 「高校生活を充実させるための調査」
⇒ 全校生徒、新入生の保護者
- 「気になる生徒調査」



分析
情報共有
情報交換

☆観察する視点の変化

⇒ 「困った生徒」から「生徒が困っているのでは？」

⇒ その行動（学びにくさ）の背景にある事物は何か？

☆授業のやり方や課題の工夫

学校全体で取り組む

通級担当・特別支援Co
学級担任
生徒指導部（相談班）

松山スタディサポート
“サポ松”

SSTゼミ

ほっこりカフェ
プロジェクト
職員全員
学校後援会

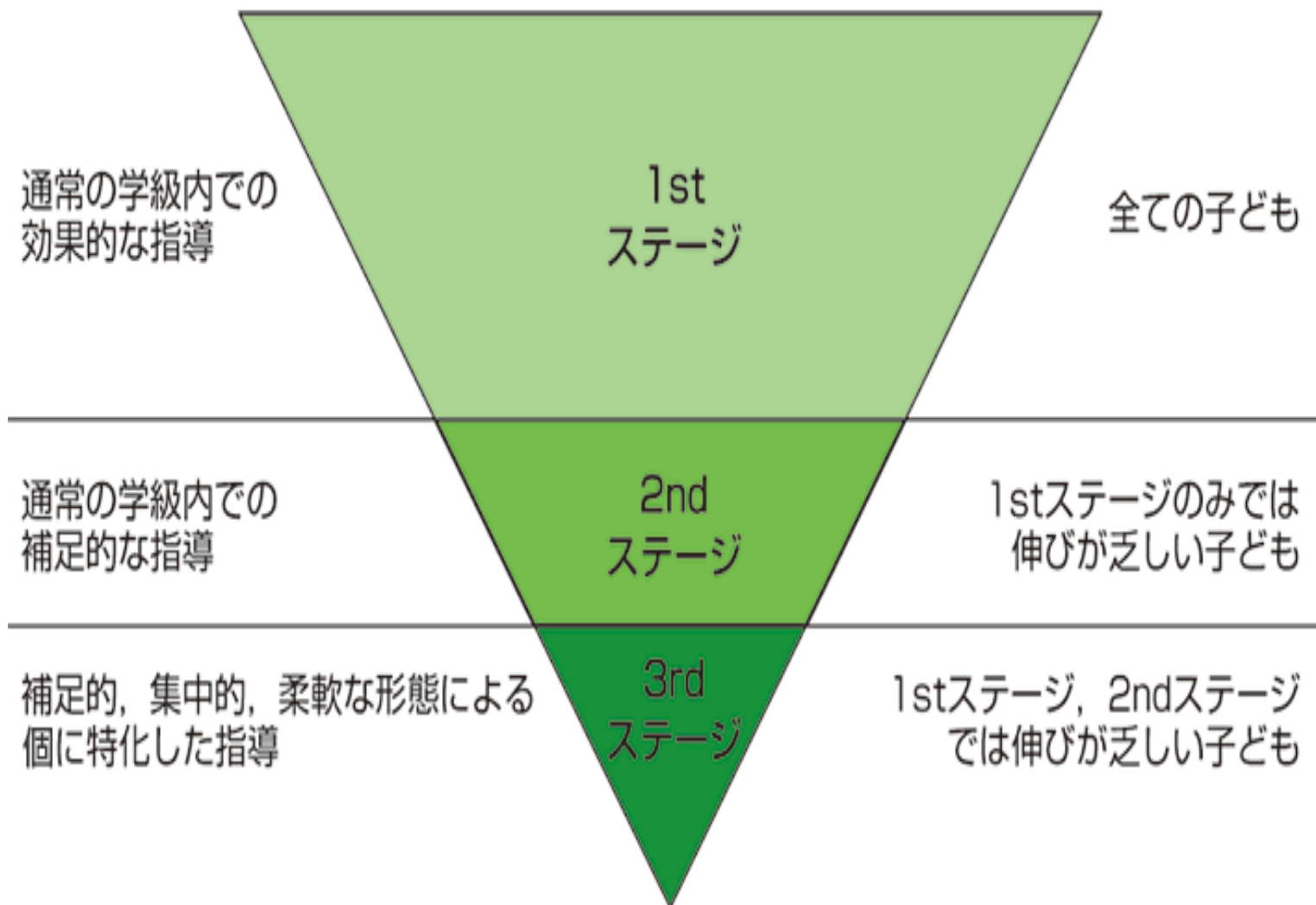
ほっこりカフェ

通級担当・特別支援Co
生徒指導部（相談班）
学級担任 学年主任

全職員による
きめ細やかな観察
情報共有
生徒との面談
分かりやすい授業

共に学ぶ教育推進モデル事業（R3～R5）

MIM（Multilayer Instruction Model 多層指導モデル）



ユニバーサルデザインの視点を入れた授業づくり

これまでの取組を更に充実させる



音楽・家政科発表会（被服コース）

ご清聴ありがとうございました